



第34号 E

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成20年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|----------------|-------------------|
| P2 磯の生物観察会 | P6 会員親睦旅行 高知 |
| P3 汽水池の水質と水生生物 | P7 三瓶自然館交流、JICA研修 |
| P4 弥山登山道の清掃 | P8 海岸生物調査、植物マップ |
| P5 大聖院登山道の復旧工事 | P9 JPR活動、編集後記 |



災害復旧工事が完了した1号堰堤

弥山登山道（大聖院ルート）は、平成17年9月、台風14号の集中豪雨で発生した土石流により登山道が被災し、以来通行止めになっていましたが、このほど、災害復旧工事が完了し3年ぶりに通行できるようになりました。

災害復旧工事にあたっては自然公園法の瀬戸内海国立公園特別地域、文化財保護法の特別史跡及び特別名勝、都市計画法の風致地区に指定され、また世界文化遺産区域にも登録されているため、その許可の取得、施工や資

材の搬入に厳しい制約がある中で実施されました。

特に1号堰堤の建設場所は、自然公園法の特別保護地区と文化財保護法の天然記念物（瀬戸内海国立公園特別地域）のため、工事用の資材や機材搬入の工事用仮設道路が造れず、現状の自然状態を保持しながらの難工事となりました。

（復旧工事の詳細はP4,5に掲載）

（写真・文）末原 義秋

磯の生物観察会

日時 8月30日（土） 10:20~15:30

場所 杉之浦公民館＆大砂利海岸

参加者 小方（嗣）小川 北野 小林ペア

舛田 村上 六重部

（環境省）藤本AR

講師 環境カウンセラー 金山芳之氏

お盆を過ぎ暑さも和らいだと思っていたら、また暑さが、ぶり返してきました。澄み切った「秋晴れ」にはまだまだ程遠いようです。

午前10時20分、杉之浦公民館に集まったのは、講師の金山さんを含めても僅か10人、少数精銳で中味の濃い自主観察会になりそうです。

午前中は金山さんから大研修室で海の生き



杉之浦公民館での参加者

物、海岸動物や海藻・海草についての観察のポイント・見分け方などの事前学習です。

午後は、大砂利海岸に移動して、磯の生き物を実地に、主に「指標生物」を中心に観察。事前学習しているとはいえないなかなか種名が出てきません、図鑑と睨めっこです。これまでこここの磯では「クロフジツボ」を僅か3個しか見ていましたが、あちこちの岩に発見、加えて今回初めて指標生物として点数の高い「イロロ」と「イシゲ」（いずれも海藻）を確認しました。徐々に海がきれいになってきているのが実感できました。

最後に参加者全員で採集した生き物を確認

しました。大砂利の海の評価は「きれいな海」、更にたくさんの生き物が棲める海になって欲しいものです。

懇切丁寧に、ご指導いただきました金山さん、有難うございました。

「大砂利海岸磯の生き物」調査結果は次表の通りでした。

指標生物名	点数	チェック
ケガキ	20	
アオガイ	19	○
ムラサキインコガイ	18	
イロロ	17	○
イワヒゲ	16	
クロフジツボ	15	○
カメノテ	14	○
イシゲ	13	○
マツバガイ	12	○
ウミトラノオ	11	○
ヒジキ	10	○

9以下のチェック生物

オオヘビガイ イボニシ ヒザラガイ アナア
オサ マガキ シロスジフジツボ ツノマタ

○の数 (N) 15

○印の点数の合計 (T) 151

平均点 (T ÷ N) 10.1

評価点 (平均点 × 8) 80.8

評価 I (きれいな海)

<評価>

I : きれいな海 (76~100点)

→自然景観の残された場所が多く、水質も良好で、水に親しめる場として非常に重要です。

II : 少しよごれた海 (51点~75点)

→潮干狩り、魚釣り、生物観察、一部で海水浴も楽しめます。

III : よごれた海 (26点~50点)

→潮干狩り、魚釣りなどが楽しめますが、海水浴には適していません。

IV : 大変よごれた海

→赤潮がよく発生する海で、水に親しむ場としてはあまり適していません。

PH (水素イオン濃度) 7.5

COD (化学的酸素要求量) 2.0

亜硝酸 0.02以下

(六重部 篤志)

第1回 “入浜探検隊”

汽水池の水質と水生生物

日 時 10月4日（土）10:00~15:00

参加者 小方（嗣） 小川 小林ペア 佐伯
佐藤 末原 中道 野呂田 弁田 松田
丸平 横路 六重部 藤本 AR

私達が06年3月以来、調査・保全活動を続けてきた「入浜汽水池」での第1回入浜探検隊（公募）を計画しました。残念ながら他の行事と重なった為か一般の応募はなくPV会員14名参加による探検となりました。

午前のプログラム「入浜の自然を感じよう」では3分間じっくりと周辺を観察する時間



- 温暖化の影響か「タイワンウチワヤンマ」などの北上が見られる。

- 今季節、赤トンボの一種「リスアカネ」が多く飛んでいる。

意外に多くの種類が生息していることに驚きました。私達は汽水池復元のための保全活動

を行っていますが、現在のところ、まだ水生生物の変化は見られないとのことです。

今回、一般参加者が無かったことを反省しつつ、この活動を末長く続けていくことの大切さを感じた一日でした。

(横路 晃)



入浜探検隊参加者

設け、各人の感じたことを発表。周辺の地形・樹木の色・風の音・鳥の声・・・入浜の魅力を再認識する時間となりました。

その後、3班に分れて水質検査を全員が体験。各人が持参した家庭の水も含め、その測定結果（COD・Ph・塩分濃度）を比較検討しました。

午後は昆虫の生態に詳しい松田会員が講師となり入浜池に住んでいるトンボの調査・観察の結果やトンボの生態について写真で詳しく解説がありました。

- 入浜池のトンボは27種（イトトンボ7種、ヤンマ7種、その他13種）

測定結果 3班の平均値です。

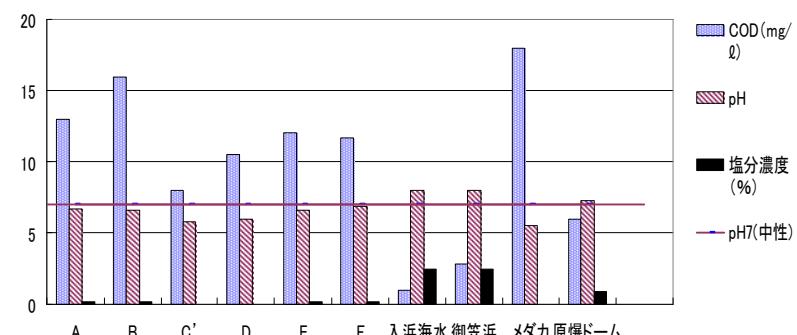
測定方法 塩分濃度は測定器を使用

測定地点 A~F：入浜池定点

入浜海水：波打ち際

御笠浜：厳島神社近くの海水 メダカ：弁田家のメダカ水槽 原爆ドーム：原爆ドーム前の元安川の水

参加者の水質測定結果



景観一丸

弥山登山道(大聖院) 災害復旧 3年ぶり開通

登山道の清掃

日 時 9月 24 日 (水) 9:00~15:00

参加者 川崎 佐藤 島 末原 田中 中道

中本 平田 平山 宮崎 村上 森 矢吹

弥山登山道(大聖院ルート)の災害復旧工事が終わり、10月から3年ぶりに通行できるようになったため、開通を前に環境省、広島県、廿日市市とボランティア2団体で歩道の落葉やシダ、木の枝払いなど清掃と路面整備作業を行いました。 (末原 義秋)

復旧した登山道の清掃作業



復旧工事概要

復旧工事にあたっては現状の自然状態を保持しながら施工するという厳しい制約があり、奥の院からの既存の登山道を利用して長さ900mのモノレールを敷設し資材を運搬しました。また、モノレールで運搬できない物はヘリコプターで空輸しました。ただし、民間のヘリコプターで運ぶ重量は3.5トンが限度であり、5トン近くあるコンクリートプランク及び濁水処理機の輸送を広島県が国土交通省を通じて防衛省へ支援を要請し、千葉県木更津市の陸上自衛隊の大型ヘリコプター(CH47)で空輸しました。

この工事は、自然環境や景観に配慮して、堰堤築造や登山道建設では支障のある木の伐採は必要最小限とし、枝をヒモで引っ張るなどして植物を保護し、ヘリコプター輸送では保護動物に指定されている猛禽類「ミサゴ」の生息地を避けるコースを設定して飛びました。また、堰堤や河川の構造物はコンクリートが直接目に見えないように自然石で覆うなど景観に配慮しました。特に2号堰堤の下流部分は土石流で流れてきた自然石を巧みに配し築山風に修景しました。

(末原 義秋)





紅葉谷公園の補修・清掃

日 時 10月 25日（土） 9:00~14:00

参加者 足立 池下 井上 小川 川崎
北野 小林（覗）佐藤 末原 田中
平田 弁田 宮崎 村上 柳瀬 矢吹
六重部

紅葉谷公園作業参加者



秋の行楽シーズンを前に恒例の紅葉谷公園内道路の補修、清掃作業を実施しました。

予定の作業を終えて有志で修復なった大聖院登山道に登り、部分的に付け替えとなった道路と見違えるようになった景観に感嘆していました



樹木名板パトロール

日 時 9月 6日（土） 9:00~12:00

（参加者）

足立 池下 井上 小方ペア
小川 北野 佐藤 渋谷 末原
富田 中道 中本 野呂田
前田 弁田 柳瀬 矢吹 横路
六重部

厳しい暑さの中20人の会員が参加、ウグイス道、アセビ道等に分かれて樹木名板の点検、取替え、補修を実施しました。昨年より破損名板の数は減っていました。

RCCラジオ中継

“エコ・ウォーク”は雨天中止

11月 24日（振休）のRCC エコ・ウォーク in 宮島は降水確率 90%で雨天中止となりましたが、ラジオ中継は雨の中、予定通り行われ、次のメンバーが同行しました。
小川 小林ペア 末原 中道 弁田 村上
西 自然保護官 藤本 AR
中継は午前中2回行われ最初に棧橋前藤棚で村上会長が「宮島パークボランティアの活動など」についてインタビュー、紅葉谷公園へ移動して中道さん他のメンバーで「紅葉谷公園・包ヶ浦自然歩道のみどころ」のインタビューに対応しました。

四国カルスト・高知・大杉 会員親睦旅行

野呂田 恵子

PV の会が発足して初めての親睦旅行として 9月 27, 8 日の一泊二日で高知へ行ってきました。当日広島駅北口をマイクロバスで 8 時半に出発、世界初の三連吊橋、来島大橋を渡って四国入りしました。

先ず最初は日本三大カルストのひとつ四国カルストの天狗高原へ、真っ青の空と秋の白い雲、見渡す限りの大パノラマが広がっていて、テンニンソウやオタカラコウなどの花々が咲き、牛がのんびり草を食んでいます。あずまやの周りはイブキザサが密生し魅惑的な紫色のシコクブシやリンドウなどがイブキザサの中に隠れるように咲いています。もうすこし居たいなど心を残し高知桂浜へ。

桂浜では維新の立役者として知られる土佐の志士坂本龍馬像を見て「龍馬さんは思っていたよりハンサムね」というささやきを聞きながら丘を下ると見渡す限り続く太平洋と白砂青松の美しい浜は南国土佐らしい雄大な景観、思わず波と戯れ足元を濡らしていました。

そして今夜の宿「高知ユースホステル」へ、家庭的でアットホームな宿でオーナー差し入れの美酒に皆、話が盛り上がり来年から定例行事として予定を組み、お薦めのプランを募集したらどうかというアイデアも出来ました。

翌日は高知城追手門から東へ 1.3km に亘り規模も歴史も日本一の街路市、高知日曜市へ早朝から三々五々繰り出しました。朝食の後は高知出身で日本の植物学の基礎を築いた牧野 富太郎博士ゆかりの牧野植物園へ、広大

な園内には珍しい植物や牧野博士ゆかりの植物など約 3 千種もの植物が植えられていて、秋の草花もちょうど見頃、時間いっぱい見て回り、とても実りある時間でした。

最後は「杉の大杉」へ、ここでは宮島 PV の会が立ち上がって間もない時、広島事務所の自然保護官として色々お世話になり、とても思い入れの深い桧垣さんが、待っておられ、久しぶりの再会に握手したり、抱き合って喜びを確かめ合い、桧垣さんの案内で大杉を見学しました。推定樹齢三千年の巨木で南北に分れた二株が根元でくっついていることから夫婦杉とも呼ばれています。大杉の前に立つとあまりの大きさに、まず驚き、そして深閑とした空間に佇んでいると神秘的で不思議な感動が湧き上がります。

帰りは瀬戸中央自動車道へ、橋から海を眺



大杉の前で参加者（前列左から）佐藤 幸田
村上 末原 坂本 中道（後列左から）富田
小林（み） 島 野呂田 佛崎 足立

めながら「やっぱり瀬戸内海はきれい、桂浜とは、随分趣が違うね」と話しながら岡山へ渡り、無事、夕方広島へ帰着しました。

この楽しい旅を企画し、お世話くださった舛田さんに全員大感謝、また来年も、たくさんの会員と親睦旅行に行けたら良いなあと思いました。

三瓶自然館 VT 交流 JICA研修生

9月13日（土）14日（日）三瓶自然館サヒメルのが「ボランティア」12名がインター・プリテーション研修の一環として来島されました。その機会に、当会からは10名の会員が参加して、交流会をもちました。

三瓶自然館へは当会の正式行事として訪問したことはありませんが、会員の中には個人的に度々訪れ、お世話になっている人も多いようです。

そのお礼も込めて、宮島をじっくりと案内しました。初日は、街中の今も現役の誓真釣井の見学と、その井戸から汲み上げられた花崗岩中の軟水をまず味わっていただきました。その後、ロープウェーで弥山へ上り、山岳信仰・真言宗の跡地や堂宇を熱心に見学しました。

ゆっくりしている間に突然の雷鳴。16時下山開始。弥山原始林の大元道を駆け下りましたが、その合間に、たかが標高500mのこの弥山にかくもの自然林が残されていることに感激していました。

19時からアルコール付きの懇親会（於ゲストハウス菊川）。今日知合ったばかりの仲間が、ボランティアの楽しみや悩みのご披露です。あつという間のひと時でした。再会を約してお開き。

翌日午前中は、当会員中道さんたち5人による厳島神社界隈の案内、午後は広島植物公園を見学して帰途へ。新しい出会いの2日間でした。（村上光春）

（参加者）井上 小方（嗣）小川 佐藤
末原 中道 野呂田 村上 横路 幸田



交流

JICA研修生

今年も「観光振興と環境保全」を学ぶJICA研修生が10月9日（木）来島しました。宮島パークボランティアの会も、宮島で活動する環境保全組織のひとつとして、その研修の一端とインタビューに協力しました。

研修生は、アルゼンチン、タイなど7ヶ国11人、殆どが政府の若手行政官です。研修は8月から2ヶ月あまり、東広島、宮島を拠点に、京都、高山など日本の素晴らしい観光地も実地見学しながら行われました。

観光立国は、開発途上国にとっては国興しの有力な施策の一つで、カンボジアのアンコールワット、エジプトのピラミッドなどはその好例です。

しかし、「観光」と「環境」とは裏表の関係にあります。「観光振興と環境保全」とを如何に調和させるかが、施策の腕の見せ所といえます。



宮島を訪れたJICA研修生一行

このような観点から、当会からは国立公園の自然保護と利用を目指した自然観察学習会や環境啓発活動の計画・実施状況について紹介しました。（蛇足ながら、彼らの大きな関心事は、会員のモチベーションの源と会の活動資金の拠りどころでした）

彼らが帰国後、日本で学んだことを、国情に合わせて実地に活用し、成果を生み出すことを期待してやみません。

（村上光春）

海岸生物調查

(秋の潮)

10月12日(日)大砂利海岸 10m巾×25m

10月13日(祝)元宇品海岸 5m巾×15m
(参加者)

10/12 小方ペア 小川 富田 柳瀬

10/13 五石 小林(み) 柳瀬

広島県の瀬戸内海水環境調査に協力

評価指標生物 20 種／調査指標種 25 種

大砂利 評価 I (76 点以上) きれいな海

元宇宙品 評価Ⅱ（51~75点）少し汚れた海

(参考)

評価III

評価IV（0~25点）赤潮非親水水域

・ケガキ、カメノテ、イロ

- ガイも少し増えて海藻も元気。
- ・磯調べのノウハウを学べばハオコゼ（カラコギ）も寄り来て我をからかわんとす。
- ・大砂利や宇品の磯に寄る波の透度増すころ安芸の亀の手。

(柳瀬 佳史)

自然歩道植物マップ作成

エコ・ウォーク in 宮島（RCC 主催、宮島地区 PV の会協力）で使用するテキストとして包ヶ浦自然歩道植物マップ（紅葉谷公園～博打尾～包ヶ浦自然公園）を作成しました。実地調査に以下の会員が協力しました。



水路の土砂除去、土のう積み

＜次号発行予定＞

発行日 平成21年3月1日

原稿締切　//　1月末日

皆さんの投稿をお待ちしています

かけがえのない里海と その生き物たち



(第1回)JPR元宇品

日時 9月15日(祝)

12:00~16:00

参加者 小方ペア

五石 小林(み) 夔田 六重部
 環境省 西 自然保護官 藤本 AR
 環境カウンセラー 金山
 学生カウンセラー 4名

事務局(人間科学研究所) 志賀 古本

昼前に小雨降る中を元宇品小学校の体育館に集合した。子どもたち25名は、すでに、午前中のアイスブレークを行っていたが、予定がのびて活動中であった。

昼食後に我々PV6名は参加した。講師の金山さんからDVDを使って元宇品の生き物についてのレクチャーがあり、その後、海辺に移動し、4班に別れて5感を働かせて16コマのビンゴーゲームで真剣に探している姿がJPRらしく思えた。

長靴や手袋をつけての生き物探しは、黒なまこ、赤なまこ、水ぐも、クモヒトデ、ギンポ、ヒライソガニ、カメノテ等など、発見、発見。海藻、貝がら等たくさんみつけた。石を動かしたら元に戻すことを忘れずに、また、



元宇品海岸で生き物探し

人は体温があるため触ると生き物はやけど状になるとの注意があった。

レンジャー達が観て好きになったもの、気になったものをスケッチし、発表した。それ

ぞれによく観察していて楽しかったようだ。今日一番の発見は、一面に張り付いたイワフジツボが「パン」とたたくと波の音のごとく、ザワー、ザワーッとウェーブして聞こえることに感動した。大人も子どもも皆んなが変わりばんこに確かめてみた。いまでも、耳に残っている。

時々小雨が降る中での体験学習だったが、無事終了、皆は港に移動してからの解散であったが、我々PVのメンバーは途中でお別れした。
(小方 爲子)

“武田山”観察会

古くから宮島と深いかかわりのあった武田山に登り自主観察会を行います。

日 時 平成21年1月25日(日) 9:30

集合場所 JR可部線 下祇園駅前

※集合場所から登山口まで会員の車で移動

◇編集後記◇

▼弥山登山道(大聖院)が修復、開通したので登ってみると、随所に登山道の付け替えがあり、土石流の破壊力を実感できる。それでもPVが、台風以前に土のうを積み上げて補修した所がそのまま健在だったのを見ると、PVの力が台風をしのぎ活動成果として残ったようで少しばかり感動した。(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島桟橋2F)